

平成14年度文部科学省委託事業

学校におけるIT活用等の推進に係る調査研究報告書

『ITを用いて指導できる』基準の 作成のための調査研究

報告書

平成 **15**年 **3**月

IT活用能力の自己チェック

50年も前、アメリカで運転免許を貰うために役所に行ったら、うすい漫画入りの小冊子を渡され、免許を持った人に同乗してもらって1週間程運転を練習して受験に来なさいといわれた。小冊子には雨の日はブレーキを踏んでも止まりにくいとか、交差点を通るときのマナーとか簡単な話があった。試験は路上で、発進停止と車庫入れだけでOK。これで大丈夫かと思うほどだった。それから1年アメリカを走りまわったが、困ることはなく無事だった。

これからの情報実技もやがては同様なことになるだろう。専門家に必要な技術はますます高度化してゆくだろうが、情報機器を使う素人は発進停止と車庫入れができれば充分という時代が来るに違いない。ただ、頭の問題だから、問題解決や創造のために何をどう駆使したらよいか、この能力を身に付ける方法は単純ではない。場面に応じて上手にやるには、場面ごとに充分に研究して選ばれた最小限の基本を身に付けた上で、実施にあたって基本をうまく使って解決に導くアイデアを磨くことが重要であろう。

今回の調査研究は、先生が指導するにあたって、教科など事項ごとに必要な見本を自分が身に付けているかどうかを自分でチェックする処方を開発したものであって、運転免許の項目の研究にあたる。例えば高等学校物理で、音の振動数や干渉等についての基本の知識とそれを学習するための基本の技術とアイデアを項目とする。

今回、小・中・高の各教科等について最小限の基本を調べ上げ、よさそうなチェックリストを構築するという苦勞の多い仕事がなされた。これを使って先生方が自己チェックして、次に修得する必要がある技能を発見して、次回の研修に向うことができれば、研修制度の前進である。

波は音の他に水面の波とか電磁波とかいろいろあるし、表計算ソフトの技術も様々な場面に利用できる。したがって、目標は同じでもチェックリストは唯一ではない。場面ごとにくつつかのチェック項目を公表しておき、その組み合わせで複数のリストが作れるような工夫をして、結果を見ながらリストの適否を判断するようにすれば、無理なく自然に、よいチェックリストが育てられよう。

今回の研究が望ましい研修制度へのよいスタートになることを期待したい。

平成15年3月

社団法人 日本教育工学振興会
会長 宮島 龍興

第 1 章	調査研究の主題と概要	3
1.1	調査研究の主題	3
1.2	調査研究の概要	3
第 2 章	評価項目の概要	6
2.1	評価項目作成の背景	6
2.2	評価項目の基本的な考え方	8
2.3	評価活用の構成	9
2.4	評価項目の表現	10
2.5	評価項目の使い方	11
2.6	今後の展開	16
第 3 章	評価表	17
3.1	共通事項	17
3.1.1	情報教育の基本	17
3.1.2	校務の情報化	19
3.2	小学校編	21
3.2.1	小学校共通	21
3.2.2	小学校各教科	22
3.3	中・高等学校編	25
3.3.1	中・高等学校共通	25
3.3.2	中・高等学校国語	27
3.3.3	中学校社会	31
3.3.4	高等学校地理	34
3.3.5	高等学校世界史	36
3.3.6	高等学校日本史	37
3.3.7	高等学校公民	38
3.3.8	中・高等学校数学	40
3.3.9	中学校理科	43
3.3.10	高等学校物理	46
3.3.11	高等学校化学	47
3.3.12	高等学校生物	49
3.3.13	高等学校地学	52
3.3.14	中・高等学校音楽	55
3.3.15	中・高等学校美術	56
3.3.16	中学校保健体育	59
3.3.17	高等学校体育	62
3.3.18	高等学校保健	64
3.3.19	中学校技術	65
3.3.20	中・高等学校家庭	66
3.3.21	中・高等学校外国語	69
3.3.22	高等学校書道	71